

# PMC論考 “開放系モデル”としての地域共創 試論

2000年3月15日 株式会社 シー・エヌ・ディ  
可香谷 栄

## はじめに

本テーマは、CNDのもうひとつの事業の柱として掲げてきたPMC（パラギ・マーケティング・クラブ 詳細は、<http://www.cnd-pmc.com> 「新たな取組」）事業の今後の展開内容を整理するためにまとめたものである。

本論考である「開放系モデルとしての地域共創試論」に続くものとしては、「開放系モデルとしての自己認知仮説」「新たな教育メソッドの展望」「スウェーデンのナショナルステップに学ぶ組織論」を予定しており、順じ検討に供したい。

本論考「開放系モデルとしての地域共創試論」のとりまとめに当っては、まず、テーマの考え方と定義を整理し、その内容的な検証を(1)コミュニティビジネスの試みとその成果、(2)地域通貨の試みとその成果、(3)その他自主的な地域住民運動の内容と成果 を対象として行うこととした。諸論考に基づいてまとめ直したテーマの定義およびそれに基づいた各分野の考察内容には忌憚のない評価を頂戴したい。

各検証分野のとりまとめは、①対象となる取り組みの概要 ②代表的な実際例 ③テーマの定義に基づく考察(検証)の手順でまとめた。

これらのとりまとめに当っては、日本国内のものだけではなく、海外(とりわけ歴史的にも文化的にも相対的に成熟している欧州各国)の取り組み内容に関する充分な収集と検証が必要だが、時間的制約から次回の課題とし、継続した収集と検証を行うこととした。

## 1. 「地域共創」の基本的な定義

### (1) 「地域共創」の言葉の意味

まず、本テーマの前提となる「地域共創」の言葉が示す内容を整理した。各々の言葉の意味を公となっている辞典等を参照すると以下のとおりとなっている。(大辞林 第二版)

「地域」…①区切られたある範囲の土地。②政治・経済・文化の上で、一定の特徴をもった空間の領域。全体社会の一部を構成する。③国際関係において一定の独立した地位を持つ存在。台湾・香港など。

「地区」…一定の区域の土地。一区画の土地。「—ごとに委員を選ぶ」「風致—」

「地方」…①全体社会の一部を構成する地域。「九州—」②首都以外の地域。➡中央「—に転任する」;local の訳語

「共創」……なし

「共生」…①一緒に生活すること。②[生物]異種の生物の共存様式。普通、二種の生物が互いに利益を交換して生活する③[心]子と母親の相互依存の状況。

「共存」…二つ以上のものが一緒に生存したり存在したりすること。「異なる人種が—する」

「協働」…①同じ目的のために、協力して働くこと。②相互作用」に同じ。

上記のとおり、残念ながら「共創」という言葉は、現在公的な意味で使用されているに至っていない。次項で改めて検討することとするが、実際に使用されているケースをみると、「共生」と「協働」collaboration を合成した意味合いで使われていることが多い。

そうした意味合いで捉えると「地域共創」とは、“ある区切られた範囲における土地において、相互利益と相互依存の関係性のなかで行われている、ある目的を達成するための協力した働き”といった解釈となる。

### (2) 「共創」の意味合いの考察

実際に「共創」という概念がどのような場合に使用されているのか、調べてみると代表的なものに以下のものがある。

□平成14年3月大阪府文化振興指針“文化の共創”; 大阪を文化によって賑わい、豊かさを享受できる都市としていくためには、大阪の文化を担う主役としての府民のニーズを踏まえながら、効果的に事業を展開していく必要がある。このため、府民の一層の参加のもとに、各主体が協力、連携し、良好なパートナーシップを保ちながら、総力を挙げて文化をともに創造していく「文化の共創」を重視していく。

□平成11年1月建設省 コミュニケーション型国土行政の創造に向けて; 社会資本整備や地域づくりは、本来、国民と行政との協働、共創作業である。人の生活と自然との関係、社会資本と地域文化との関係まで視野に入れた深みのあるコミュニケーションの推進を通じて、国民と行政との信頼関係の下で、良質な社会資本が蓄積されていく必要がある…。

□2000年第55回国際青年会議所世界会議札幌大会開催テーマ『Spirit of Collaboration ー共に創るこころ』; Collaborationとは「共生」を一步進め、「共創」という積極的な意味を持っています。21世紀が、世界のあらゆる人々・世界のあらゆる地域、世界のあらゆる国々が手を携え、共に発展するための工夫と知恵で結ばれること。異質なものを認め合いながらも、共通の課題と成果に向かって汗することによって、新たな価値を創り出すような社会。これが大会テーマに込められた私たちの思いです…。

□金沢工業大学場の研究所所長 清水博氏“21世紀社会には新しいキーワードが登場する。それは「場」と「共創」である”;至る所に矛盾が生まれ、20世紀型社会はいよいよ行き詰まり感を強めている。その典型的な例が物質的な占有欲を増殖させた人々が果てしない欲望の膨張を夢見て引き起こしたバブル経済とその崩壊である…。21世紀型社会はこの果てしない膨張に代わって、人々が生きていることの意味を深め、その生を充実させる新しい原理によってうち立てられるものでなければならない。欲望の膨張に代わって内的世界の発展が求められなければならない。この文明の大転換にあたって、どのように生きて、どのような社会をつくればよいか、人々に今後の生き方を示す哲学が求められる…。

物理的にはますます狭まる地球で、様々な文化的・宗教的背景をもつ人々が共に参加し、多様であることを対立の原因とすることなく逆に豊かになるための基盤として、グローバルな国際文化を創る—21世紀はそうした時代でなければならない。…自由競争と多数決原理はこの社会の意志決定原理とはならず、自由参加と共創原理が次の時代の原理となるであろう。したがって 21世紀社会には新しいキーワードが登場する。それは「場」と「共創」である。すなわち多様な人々が集まつてつくる場と、そこで人々がおこなう共創である。

□北海道教育大学 平成12年度研究全体構想 研究紀要第46集「前文」「共創の学校を求めて”;激しい変化の時代が続く中、21世紀への扉が開かれようとしている。物質的な豊かさの影に様々な難問を抱えたスタートといえよう。また、この物質的な豊かさは、高度化・専門化・情報化された複雑な社会構造を生むと同時に、人間関係の希薄さも生み出しているといわれている。その中で、人々は多くのストレスを抱えた生活を強いられ、精神的な豊かさを見失いかけているともいわれている。我々は現在それに対応すべく、社会システム、行動様式、生き方に對してまでも対応に迫られてきている。これらの社会的な状況は、子どもの中にも敏感に反映される。多くの子どもが精神的なストレスを感じ、自らが生きる方向性、目的が見出せないアンバランスな状態にあるといわれる。「人間としての豊かさ」「自他の存在をかけがえのないものと認める人間性の広がり」「夢や理想を追い自己実現を求める力や姿勢」を真に将来にわたって生きる力として身につけていく必要性が問われている。これらは、もはや従来の「学校教育の枠」の中のみで解決できる問題ではなく、保護者、地域・社会、教師が有機的に結びついた新たな学校システムの必要性が求められている。

□東京工業大学 総合理工学研究科 知能システム科学専攻三宅研究室“生命における「共創」” 粘菌はカビの一種であり、その胞子が発芽してきたアーバガがたくさん融合してきた巨大な生物システムです。脳や神経系など集中的な制御機構を持たないにも関わらず、1個体として統合された形態を維持しながら行動しています。そのとき個体の各部分系がどのような形態になるかは予め決まっておらず、それは他の部分系との細胞内コミュニケーションの中で決定されます。つまり、ある部分系を規定する情報(拘束条件)は、その部分系と他の部分系の相互関係(位置情報)からリアルタイムに生成されます。特に、そのメカニズムとしては、細胞内化学リズムとその相互引き込みを通して生成される位相的コヒーレンスの自己組織が重要であることが明らかになってきました。これらは、人間がコミュニケーションを通してコミュニティーを生成しつつ、自己の役割を決めていく共創プロセスと対比できます。…上記のような実験的観察や数理的モデル化だけでは、どうしても到達できない共創の領域があります。それは、生成プロセスそのものを観察やモデル化の対象としてしまうと、その系の拘束条件が固定され、その系が人間との相互作用の外部に置かれてしまうという問題です。したがって、共創の研究は、共創モデルとしての記述の領域を超えて、人間とモデルのインターフェースに注目しなければなりません。つまり、自己との関係を包摶した共創的インターフェース領域を含めて扱わなければならないということです。そして、このような共創的コミュニケーションにおける明在性と暗在性としての相補的な捉え方を「2重性」と名づけ、その論理的枠組みとしての「共生成システム」をわれわれは提案してきました。○相互干渉系における関係同定に基づく適応機構と人間一口ボット協調歩行問題に対するその適用('97) ○人間一機械一人間系”における相互補償に基づくコミュニケーション支援('98) ○2重ダイナミクスマodelに基づく共生成インターフェースの構築('00)…

以上のとおり、「共創」という概念は、単に協力や連携、パートナーシップの形成といった意味内容から、新たな価値の創造という意味合いまでレンジが広く使われている。

極めて前提的なことになるが、「共生」や「共生」よりもより積極的な意味を持つ概念としての「共創」が、社会的に広く一般に使われはじめた時代的な背景を考えると、ご存知のとおり、70年代以降における地球環境問題への注目と世界的な取組があると考えられる。

□1972年かけがえのない地球(Only One Earth)をスローガンに掲げた「国連人間環境会議」(スウェーデンのストックホルム);会議には113カ国が参加し、「人間環境の保全と向上に関し、世界の人々を励まし、導くため共通の見解と原則」であるとうたった「人間環境宣言」が採択された。その後、87年に「われら共有の未来(Our Common Future)」は、「持続可能な開発(Sustainable Development)」を「将来世代のニーズを損なうことなく現在の世代のニーズを満たすこと」と定義された。また、1992年にはブラジルのリオデジャネイロで開かれた「国連環境開発会議(地球サミット)」を機に地球環境への配慮に関する認識は、その実行度合いは別にして社会化したと考えられる。本年8月26日から9月4日には南アフリカのヨハネスブルグで「持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD、ヨハネスブルグ・サミット)」が開催されている。

### (3)「地域共創」の定義

以上の点を踏まえて、「共創」という概念をより本質的に捉え返し、本テーマの取り組みでは「地域共創」を以下のとおり定義することとした。

**地域共創とは、地域において、新たな規範や価値に基づくつながりを創出する試みである。**

※**地域:**コミュニティ論等を参考とし、概ね人口は5万～20万人程度の(人口基準では規模が確定できない)居住生活圏単位で、地理的・歴史的に自然なつながりのある地域想定した。

※**新たな規範や価値:**現代の一般的な社会現象や人間行動の背景には、その基準となる価値観がある。これらの価値観は、ルネサンス・宗教革命によって欧洲からはじまり、世界に拡がった15C以降の近代化がもたらした、「自由・平等・博愛」(フランス革命のスローガン)に象徴される個人主義、科学の発展による物質的豊かさ(便利・快適・効率)至上主義、個々の事象を分解して解釈する科学万能主義、地球環境問題に象徴される人類中心主義といった価値観がある。これらの価値観は、日常的で無意識な意識にまで浸透し、判断基準はもとより、感覚や自意識にまで浸透していると考えられる。こうした価値観に対する“地球環境の保護と相容れないものであるばかりではなく、生態系の一部の類としてく生きる>こと自体に相容れないものである”といったアンチテーゼの議論はさまざまな分野で生じているが、反意的理念的であったり、外部的・部分的なものが多く、その主張は抽象的な普及啓蒙活動の域を出ていない。

新たな規範や価値観とは、これらのアンチテーゼを主意的内在的全体的に捉え返そうとしたものであり、“目に見える実際行動や行為”によって検証し体系化・社会化しようとするものであると考えた。(理念的出来合いのものがあるのではなく、試みの途上にあるものとして捉えた。)日常的な判断や行動とその背景にあるこれまでの価値観(規範)と新たな価値観(規範)に基づく判断や行動のイメージをまとめると以下のとおりである。

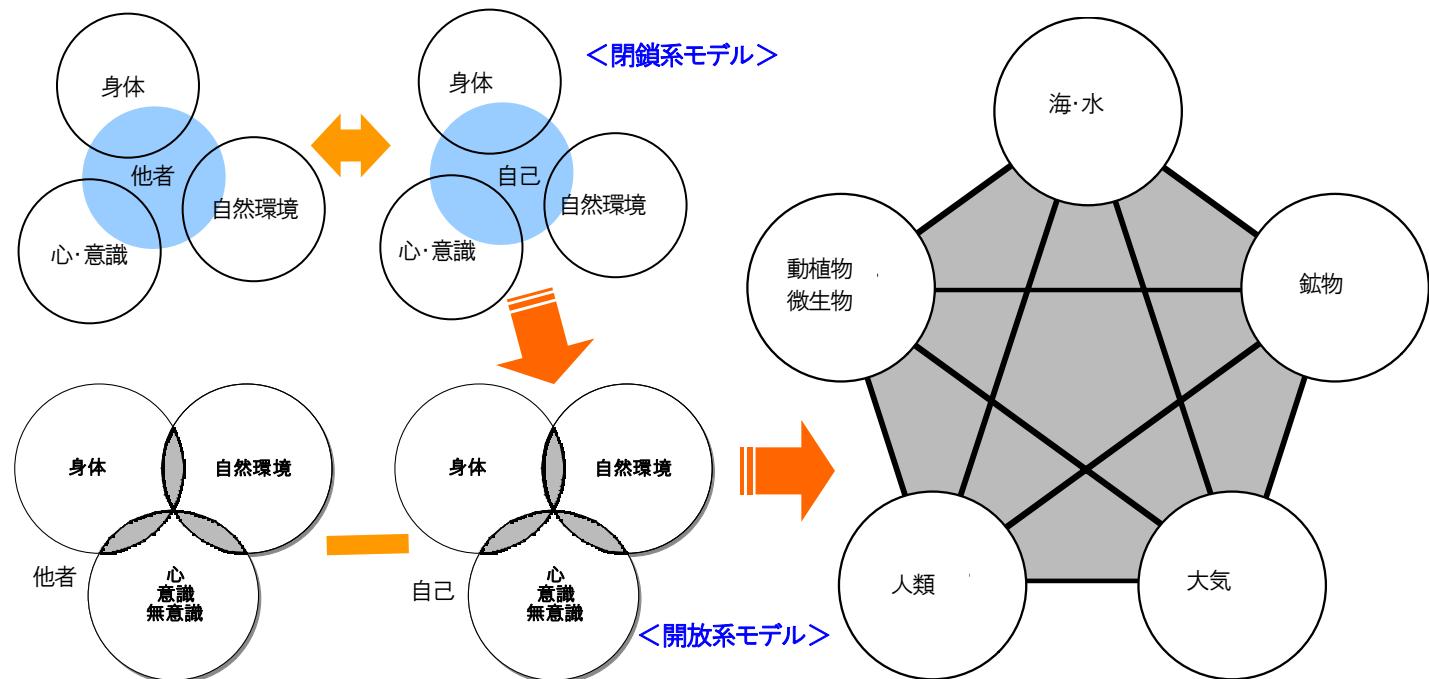
## (生活編)

※心(心的現象)編は別途作成中

これまでの価値観や規範 アンチテーゼ①	一般的な判断や行動	高熱が出ると解熱剤を飲む	農業の生産性を高めるためには、化学肥料や農薬を多用する。	不快な匂いはできる限り、消臭・無臭にする	階段とエレベーターがあると後者を選ぶ。また、近くでも車を利用する。	できる限り、空調を利用する。
	その背景となっている価値観	医科学で熱を押さえることができる。	手間が省け、最も効率的に短期間で食物が栽培できる。	快適である。匂いはしない方がいい。	楽である。疲れるより疲れに方がいい。	快適である。暑さや寒さは避けた方がいい。
新たな価値観の萌芽 アンチテーゼ②	対峙する判断	ウイルス性の発熱は、免疫機能(体液防衛機能および細胞性免疫機能)の発現によるものであり、時間が経たないと熱は下がらない。熱よりも解熱剤の副作用の影響が生体を蝕む。	土1g当たりに10億生息するバクテリアの死滅は、生態系を破壊する。化学肥料や農薬で栽培された農作物は生命力が弱く、また、栄養価も低くなっている。	五感では分からない有害成分を部屋に閉じ込めたり、害のあるものを避けようとせずに生体を守れなくなる	楽を選ぶことは、“安静の害”を心身にもたらし、骨粗鬆症や痴呆症の条件要因となっている。	四季の変化への適応する生理機能が不調となる。
	対峙する判断の延長線上に想定できる価値観	自然治癒力(生命力)を引出した対応(新たな医学的方法論)が必要である。	生命力を引き出す農法の体系化が必要である。(緑健農法等)	匂いは、生体を守るアラームであり自然な匂いを損なわないようになることが必要である。	人間の健康は歩くことを起点に維持するようになっている(血液循環やカルシウムの吸収)	四季の変化を体感することによって生理機能を健全に保持することが必要である。

※地球全体は生き物であり、それをガイアと呼び、生態系～心的な現象までガイアの観点から捉えようとする試み等はあるが、これら個々の内容を体系化した価値観＝行動規範の体系化に至っていない。

＜つながり＞；“自然環境とのつながり”“人と人とのつながり”“心と身体のつながり”“(心における)知と意と情のつながり”等を示す。



参考；本質的に人間もガイアも<閉鎖系モデル>ではなく、<開放系モデル>に基づいた関係性を持っているという考え方がある。後者では、せいぜい相互に間接的な影響を及ぼす程度の関係ではなく、表面的には関係がないような現象でも本質的には関係が深く、相互にその要素や存在が不可欠であるという関係を前提としている。

以上の定義に基づいて、今回は、地域的な取り組みである「コミュニティビジネス」「地域通貨」「その他の活動」を取り上げ、各々の概要をまとめ、典型的なケースを取り上げた上で、まず、それらの取り組みによってどのようなコミュニケーション上の変化が現れたのかを整理し、その変化においてこうした新たな価値観や規範に基づく＜つながり＞の創出はどのように見られるのかを考察し、とりまとめることとした。

## 2. ケースに基づく「地域共創」の検証(くつながり)における新たな規範・価値観を求めて)

### (1)コミュニティ・ビジネスの試みの検証

#### ①コミュニティ・ビジネスとは何か？

コミュニティ・ビジネスについては、多くの資料でその概念が述べられているが、諸論考に基づいて以下のとおり再定義づけることとする。

「地域の資源(労働力、原材料、風土、ノウハウ、技術、文化、産業)を活用し、**地域住民が主体**になって、**地域の問題・課題を解決することを目的とする事業活動**」

#### 【参考文献】

「コミュニティ・ビジネスの定義は定まっていないが、概ね「地域社会のニーズを満たす財・サービスの提供等を有償方式により担う事業で、利益の最大化を目的とするのではなく、生活者の立場に立ち、様々な形で地域の利益の増大を目的とする事業」と定義される。」(平成12年国民生活白書)

「市民が介護、育児、環境保護などの地域の様々な課題をビジネスチャンスと捉え、ビジネスの手法で解決すること。」(関東経済産業局)

「コミュニティ・ビジネスとは、地域の人々が、地域に眠っている資源(労働力、原材料、技術力など)を活用して行う小規模ビジネスで、利益の追求に加え地域課題の解決を目指すものです。」(九州経済産業局)

「地域コミュニティを元気にすることを目的とした地域密着のスマーロ・ビジネスのことであり、地域住民が主体的に地域コミュニティの問題に取り組み、自分たちが持っている経営資源を用いて、ビジネスの形態で実現していくこと」(ヒューマン・ルネッサンス研究所 細内信孝)

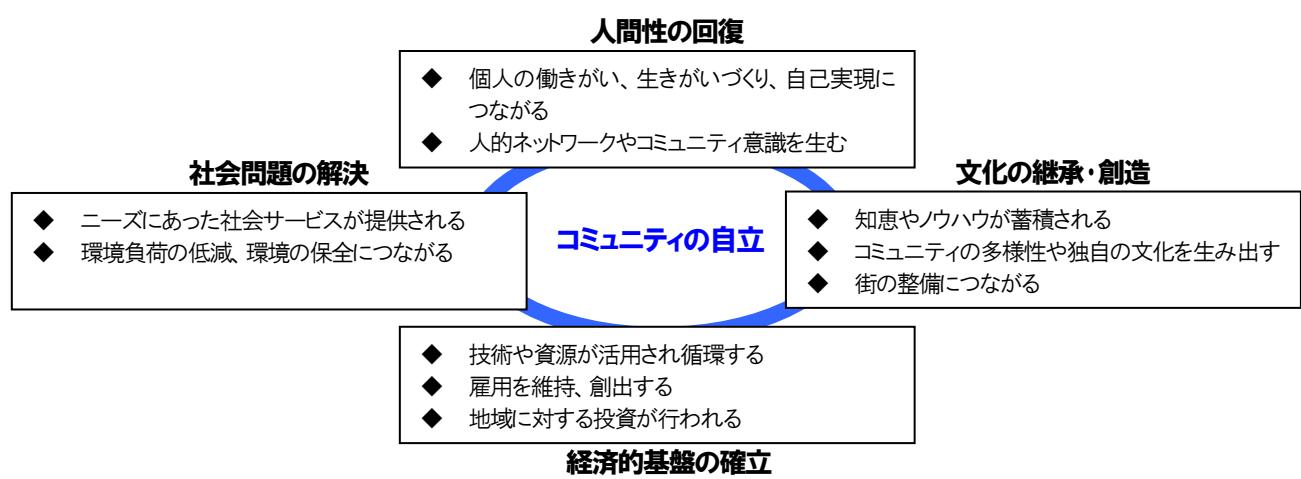
「コミュニティ自身が設立・所有し、運営を行う経済組織であり、地域の人々それぞれが自立した仕事を持ち、その仕事を地域に提供することにより、コミュニティの維持・発展を促すことを目的としている。活動の利益は、より多くの雇用創出に振り向けられたり、地域に必要なサービス提供に使用される」

(CBS=Community Business Scotland Network の定義)

※CBS=イギリスの慈善団体。CBSを中心として各種CBへの支援が行われている。

#### ②理念としてのコミュニティ・ビジネスが果す役割と期待される効果

公共性と商業性の中間的存在として、コミュニティにある様々な問題の解決に貢献する。



(コミュニティ・ビジネス 細川信孝 中央大学出版部)

### ③代表的な実際例

名称	<b>黒松内ぶなの森自然学校（北海道寿都郡黒松内町）</b>
事業の背景 (地域課題)	<p>近郊に大都市が存在せず、就労場所の減少などを原因として人口の流出、高齢化、過疎化が進んでいた。酪農を基幹産業としていたため、農業を取り巻く社会経済状況の悪化が街の基盤を揺るがす、大きな問題となっていた。</p> <p>このような状況で、昭和60年代にリゾートブームが到来し、ゴルフ場、スキー場、ホテル等いわゆるリゾート3点セットを基礎とした地域振興が盛んになるが、本町は民間のディベロッパーが提案する開発計画にはあえてに乗らず、町民有志によって組織された「まちづくり推進委員会」を組織、自然を基調とした“ブナ北限の里づくり構想”を基本に据え、自然を生かしたまちづくりへの取り組みに着手した。(下記はHPより抜粋)</p> <p>「黒松内町は、昭和63(1988)年度に策定された「ブナ北限の里づくり構想」にもとづき、国の天然記念物にも指定されている「歌才ブナ林」をシンボルに環境と人にやさしいまちづくりを進めてきました。その中でリゾート施設などは誘致せず、町にある素材(自然、人、酪農)をうまくソフト化し、来町者を呼び込んだことに特徴があります。その町づくりにおいての中心のひとつが町営の博物館である「ブナセンター」です。主に、北限のブナ林を取り巻く自然環境や郷土文化を資源にした自然体験型環境学習の開発実施に特に力を入れてきました。</p> <p>その継続的な実績と、(社)日本環境教育フォーラムや北海道自然体験学校 NEOS(NPO 法人ねおす)などのネットワークを背景に、環境庁・自治省が進める自然体験型環境学習拠点(ふるさと自然塾)事業が平成11年度より行われることになりました。それにもとづき、黒松内町における環境学習の質・量ともにさらなる発展をめざし、平成10(1998)年11月「黒松内ぶなの森自然学校」が誕生したのです。(活動開始は平成11(1999)年4月より)"</p>
取り組みの概要	<p><b>1. 自然体験型環境学習プログラム事業</b>          黒松内の豊かな自然環境を利用して、様々な自然体験プログラムを提供。          ・学校向け自然体験プログラム; 小・中学校、高校、大学、各種学校と学校団体全般を対象に、ねらい・テーマ・人数などによりアクティビティ(ゲームや散策などの活動群)を組み合わせて個別に体験内容を作成。いずれも環境学習や総合学習を視野に入れている。          ・一般観光客向け自然ガイド; 黒松内を訪れる一般の方々に四季を通じて黒松内の自然を案内。          ・子ども長期自然体験村; 春・夏休みに小中学生向けの長期キャンプを実施。「生きる力」を養うことを目的に、幅広い年齢の子ども達が、一つ屋根の下で2~3週間の共同生活し、自然の中での活動も豊富に体験できる。</p> <p><b>2. 人材育成事業</b>          研修生制度により、自然案内人や環境教育・自然教育指導者、自然学校指導者を育成。          ・実務研修(OJT)による育成          ・研修カリキュラムによる育成          ・人材ネットワークによる育成……既に道内各地で活動を行っている方々とのネットワークを構築し、情報交換や相互研修、ステップアップ研修などを行う。</p> <p><b>3. 地域交流促進事業</b>          黒松内と都市との交流を活発にするための活動。          ・都市との交流をはかるプログラム実施; 自然学校の主催事業として、都市から参加される方々に黒松内の自然を満喫できるプログラムを提供している。また、町のイベントなどにも講師役や裏方役で参加し、都市の方々と交流を持っている。          ・黒松内ファンクラブ「ブナ里週末田舎人」事務局</p>
組織構成	<p>設立: 黒松内町、運営: 任意の民間団体である「ぶなの森自然学校運営協議会」          協議会は、町内外の関連団体や環境教育実践している人々で組織されている。          非常勤会員(運営協議委員)27名 常勤の事務局職員1名 非常勤コーディネーター1名 研修生2名</p>
ポイント	<p>・「公設民営」スタイル(官と民の共創)          ・アメリカのステューデントホスピタルのような運営(研修生制度)</p> <p>プログラムを進めているスタッフが「研修生」であることが特徴である。この制度は、研修生が実際のプログラムに携わることから、研修医(レジデンス)が実際の医療に携わるアメリカのステューデント・ホスピタルに似ていると言える。そして、指導者になるべく一年間学んだ研修生が、この自然学校に残るか、あるいは新たな自然学校をつくり、それがネットワークで結ばれることを理想としている。黒松内から全道・全国へ、たくさんの方々に自然体験型プログラムの指導者を送り出す。</p>
事業規模	1000万~1200万円 (参加者からの収入の増加や黒松内町からの補助金により、徐々に安定した収入を確保している)
今後の課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>他地域においても自然体験学習事業が続出したときの競争優位喪失の懸念。</li> <li>公設民営の事業形態の持つ問題が顕在化する懸念。</li> </ol>

「ぶなの森自然学校」は、北海道黒松内町の地域振興の一環として設立されたが、その活動目的は地域内に留まっている。黒松内町地域が主体のコミュニティ・ビジネスでありながら、組織構成が開放的なことが特徴といえる。（官設民営の学校事業であるが、行政から的人材派遣などは一切なく、町内外の有識者からなる運営協議会が運営を行っている。構成員も、町内外の関連団体や環境教育実践者で組織）

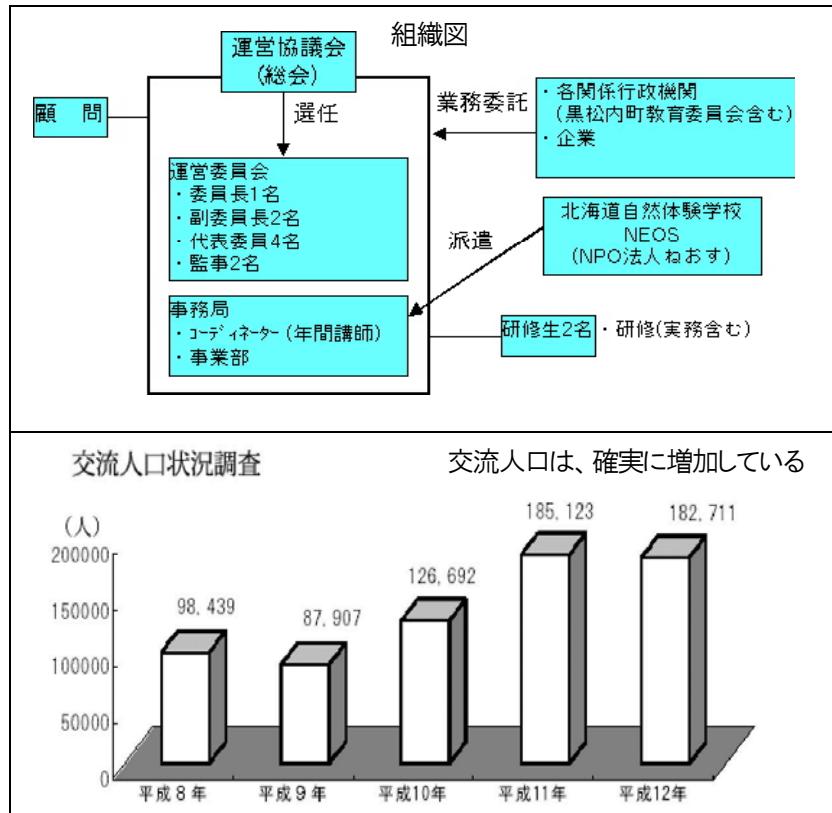
全国から研修生を受け入れ、育てた後、全国に送り出すということを、事業目的の一つとして掲げている。地域で始まった、環境教育や自然保护活動を地域内だけに留めさせず、地域外にも広めていくというところに目的を置いているが故に、その理念や活動内容の普遍性や価値観が問われることとなる。その意味で先に整理した定義の検証という意味で取り上げることとした。

「ぶなの森自然学校」は、設立当初から（平成11年度後期）、「緊急地域雇用対策推進事業」（国）により、「学校教育部」（School Service Officer）を新設しており、H12年度の活動として、以下の13校の利用が報告されているが、その後の利用状況は、行われていない。

- 4/15 蕨岱小学校野鳥観察
- 5/17 御成小学校化石採集
- 6/ 6 古平高校歌才ブナ林散策・GW
- 6/30 豊浦高校GW
- 7/ 9 潮路小学校添別ブナ林散策
- 7/12 余市養護高校作業授業
- 7/13 ロース幼稚園ブナのお話
- 7/19 白井川小学校陶芸
- 9/ 1 中の川小学校森林公園散策
- 9/13 白井川中学校技術授業
- 10/ 6 双葉小学校バードコール作り
- 12/22 黒松内中学校地学授業
- 3/ 6 中の川小学校冬の森探検

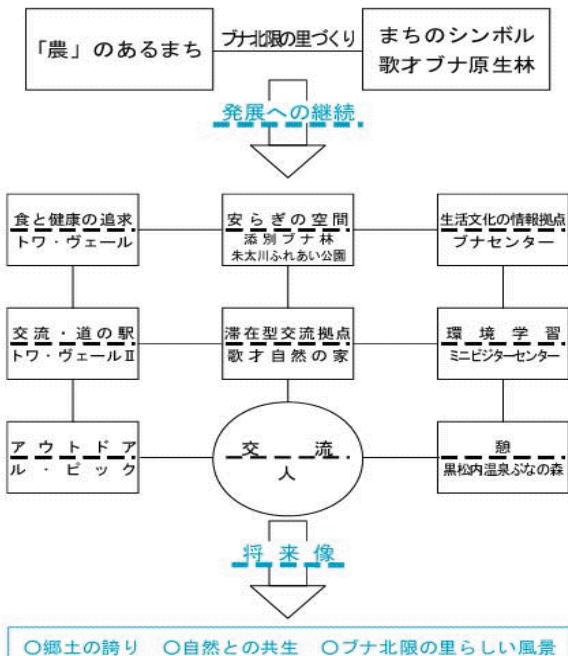
また、H14年12月段階でHPのアクセス数は6600余りに止まっている。（H13. 3. 19～）

他のコミュニティビジネスの異なり、新たな規範や価値観にもとづくつながりの創出を求めながら、その実際は未知数である。



### 【参考】

## 黒松内町の目指す姿



## 参考：【コミュニティ・ビジネスが抱える主な課題】

1. 少ない人件費……多くの収入を見込めないことから人件費の支出を抑えることとなり、常勤がすくなくなる
2. 経営ノウハウの不足……経営経験がなかつたり乏しかつたりすることから、効率的な経営を行えない  
【解決策】⇒ 経験を持った人材を確保する、難しい場合は類似事業を実施しており、経営が良好な団体の手法を参考にする
3. 繼続性のある安定した収入……顧客となる対象が、収入の多い層とはなりにくく、安定した収入が期待できない  
【解決策】⇒ 国の制度やその他補助金など公的な収入源を得られるような事業に着目する。行政や企業にPRを行い理解をする
4. 過疎地域での人材確保  
【解決策】⇒ PR、情報提供を行いながら、住民から共感が得られる事業内容とすること。主婦、高齢者の活用
5. 事業資金の不足、財務体质の強化
6. 他地域、民間企業との競合
7. 循環型経済の限界……過疎地域では、マーケット自体が小さい為、地域内のみではビジネスとして成り立たない
8. 地域の支援体制
9. 活動体制の弱さ……構成員が本業を持っているなど、コミュニティ・ビジネスに全面的に取り組むことが困難。  
組織運営、労務管理面での問題など
10. 専門的人材の不足
11. コーディネーター人材の不足
12. ビジネス・センスや支援機関の不足
13. コミュニティ・ビジネスに対する地域の認識や理解不足……古い人間関係に引きずられ足の引っ張り合いが生じている、新しいことが受け入れられづらいなど
14. 実施側の情報発信不足……単なる営利事業と異なり、地域の課題解決やニーズにあったサービス展開においては、地域の理解と協力が不可欠となり、お互いに理解してもらう努力が必要となる。

(「コミュニティ・ビジネスの豊かな展開」北海道自治政策研修センター、「NPO 法人アンケート調査」経済産業研究所:経済産業省より抜粋)

## 【成功しているケースの主な要因】

比較的成功しているコミュニティ・ビジネスの主な成功要因は、下記のとおりである。

1. リーダーの存在……中心となる人物が事業に活かせる知識を持ち、事業開始前に地域ニーズを把握できる立場にあること
2. 本業の安定性……構成メンバーが安定した収入を持っていることで、失敗の際のリスクカバーができる
3. 人材確保……最低賃金に近い給料でも職員やパートが確保できたこと
4. ハード面の初期投資……初期投資の費用負担を軽減できること
5. 地域ニーズの反映……地域ニーズの反映により住民の協力や支援が得られたこと
6. 住民の協力や支援
7. 行政の支援
8. 競合の少ないニッチ市場を相手に

## (2)地域通貨の試みの検証

### ①地域通貨とは

通常の貨幣価値に置き換えていく人の善意や助け合いなどボランティアサービス、あるいは地域経済の活性化に役立つモノやサービスの交換を媒介する通貨やシステムのこと。通貨の流通範囲は一定の地域(コミュニティ)内に限定されることが多い「コミュニティ通貨」と呼ばれる。通貨を発行するのは日銀など中央銀行ではなく、NPOや住民組織が多い。国の法定通貨は富の蓄積や信用供与機能を持ち、利子がつくが、地域通貨にはそうした機能がない。(生活新聞No.354)

もともとはイギリス、オーストラリアなどのLETS、アメリカのイサカアワーズ、カナダのトロントダラー、ドイツの交換リンクなど、地域内の経済循環を図り地域経済の自立性を高めようというねらいで始まったものが、日本でも 30 以上の地域で試みられている。一般にエコマネーと呼ばれ、①運営団体、②登録会員(メンバ-)、③通貨または通帳から構成される。

### ②地域通貨の特徴

・貨幣では表現できない新しい「価値」を交換することができる／・ボランティア活動や地域社会に貢献する活動を活性化させる／・地域の人間関係を円滑にしていく (生活新聞No.354)

### ③地域通貨の種類

<紙幣発行型>「イサカアワー」や「おうみ」のように、お札を実際に刷って流通させるもの。今の日本の法律では、こういったものが合法なのか非合法なのかはつきりしておらず、将来的には問題になる可能性がある。多少法的な問題にも気を配る必要がある。

<通帳記入型>LETS やピーナツ、それにレインボーリングなどが採用している方式。会員が通帳を持って、その通帳に残高を記入していくもの。

<小切手型>メキシコのトラロックが採用している方式。一見紙幣発行型だが、裏面に持ち主が次々にサインをしていく、というもの。

<タイムダラー型>愛媛県関前町の「だんだん」が代表的な例。30 分の仕事に対して「だんだん」と呼ばれるおはじきを1 枚渡し合う、というもの。

参考:日本の地域通貨

ガル	北海道苫小牧市付近	0144-34-2385 <a href="mailto:ishikoro@hokkai.or.jp">ishikoro@hokkai.or.jp</a>
ブナヘン	北海道黒松内町	TEL:0136-72-3124 <a href="mailto:zun96@anet.ne.jp">zun96@anet.ne.jp</a>
ビーズリング	仙台市	<a href="mailto:michinoku@pos.to">michinoku@pos.to</a>
LETS 会津	福島県会津地域	<a href="mailto:info@lets-aizu.org">info@lets-aizu.org</a>
ピーナツ	千葉県	TEL&FAX:043-206-7726 <a href="mailto:born@jca.apc.org">born@jca.apc.org</a>
アースデーマネー	渋谷駅周辺	<a href="mailto:info@earthdaymoney.org">info@earthdaymoney.org</a>
COMO	東京都多摩地区	070-5456-1886 <a href="mailto:office@como.gr.jp">office@como.gr.jp</a>
ボラン交換リング	立川市近郊	TEL:(042)523-7112 <a href="mailto:kenji-gakkou@ma.neweb.ne.jp">kenji-gakkou@ma.neweb.ne.jp</a>
MORINO	富士見高原	こちらのフォームで
ダニー	南信州	TEL 0265-53-5980 <a href="mailto:tekuteku@avis.ne.jp">tekuteku@avis.ne.jp</a>
YU	諏訪郡原村	TEL/FAX 0266-74-2616 <a href="mailto:kazenomori@swm.root.or.jp">kazenomori@swm.root.or.jp</a>
ハケ岳大福帳	山梨県北巨摩郡な	<a href="mailto:tk0612@plum.plala.or.jp">tk0612@plum.plala.or.jp</a>
ハートマネー安曇野リング	長野県安曇野	<a href="mailto:shalom@ultraman.gr.jp">shalom@ultraman.gr.jp</a>
まーゆ	長野県上田市	<a href="mailto:info@uedasi.com">info@uedasi.com</a>
LETS なーも	名古屋市	TEL 052-933-5380 <a href="mailto:tokai@kankyoshimin.org">tokai@kankyoshimin.org</a>
LETS チタ	知多半島	TEL/FAX 0569-29-4315 <a href="mailto:miea@chitanet.or.jp">miea@chitanet.or.jp</a>
ポート	四日市市	TEL 0593-63-4990 FAX 0593-63-4989
おうみ	草津市	TEL/FAX 077-562-1153 <a href="mailto:ohmi@kaikaku21.com">ohmi@kaikaku21.com</a>
キヨーレッツ	京都市	TEL. 070-5651-3206 <a href="mailto:kyoto_lets@geocities.co.jp">kyoto_lets@geocities.co.jp</a>
モモマネー	吹田市	TEL 06-6337-8330 <a href="mailto:monomoie@jp.bigplanet.com">monomoie@jp.bigplanet.com</a>
タイムダラー	愛媛県各地	<a href="mailto:webmaster@timedollar.or.jp">webmaster@timedollar.or.jp</a>
せと	高松市	<a href="mailto:tn-satou@pop21.odn.ne.jp">tn-satou@pop21.odn.ne.jp</a>
よかよか	福岡市博多区	TEL. 092-262-0298 <a href="mailto:yoka@elf.coara.or.jp">yoka@elf.coara.or.jp</a>
コール	大牟田市	TEL/FAX:0944-56-9417 <a href="mailto:brian@o.ocn.ne.jp">brian@o.ocn.ne.jp</a>
FUKU	大分県中津市	TEL 0979-32-9575 FAX: 0979-32-9576 <a href="mailto:fuku@nakatsu.org">fuku@nakatsu.org</a>
YUFU	大分県湯布院町	TEL&FAX 0977-85-5003 <a href="mailto:yufukiri@fat.coara.or.jp">yufukiri@fat.coara.or.jp</a>
パールレッツ	長崎県北部	<a href="mailto:tosmat@try-net.or.jp">tosmat@try-net.or.jp</a>
花子	鹿児島県川辺町	TEL/FAX 0993-56-3738 <a href="mailto:moe-moe@po.minc.ne.jp">moe-moe@po.minc.ne.jp</a>
レインボーリング	主に関東	TEL &FAX:0468-37-8649 <a href="mailto:info@rainbow-ring.net">info@rainbow-ring.net</a>
ボランティア 労力銀行	本部:大阪市	TEL 06-6583-4006 <a href="mailto:v_roughin@d4.dion.ne.jp">v_roughin@d4.dion.ne.jp</a>
WAT 清算システム	全国。創設者横浜在住	<a href="mailto:info@grsj.org">info@grsj.org</a>

#### ④代表的な取り組み事例（アメリカのイサカアワー）

アメリカ合衆国ニューヨーク州トンプキンス郡イサカは、ニューヨークから飛行機で北に40分ほどに位置し、フィンガー・レイクの一つカユガ湖のほとりにある、コーネル大学を中心に抱える人口三万人の地方学園都市だ。ちなみに、イサカという地名は、ユガガンというアメリカンネイティブが住んでいたところに入植したギリシャの移民が、名づけた地名である。

イサカでは、移民の入植当時にはスペイン・フランス・イギリス・オランダの通貨や、現地住民であるイロコイ族のお金（ユガカンと移民が取引をするときに使ったお金）などが使われていた。その後 1790 年よりアメリカの通貨が発行され、1863 年より、ナショナルバンクが地方銀行を通じて通貨を発行するというシステムが確立され、1929 年まで続いていた。しかし、1930 年ごろ世界恐慌が起き、通貨システムが滞り、そのときに発行されたのがハーダタイム・トーケンや、イサカ銀行独自の紙幣なのだ。これは、江戸時代諸藩が発行した藩独自の紙幣と同じ意味合いだろう。全米では、法定通貨が不足すると自治体や企業が約束手形に類似した代用通貨を発行する歴史がもともとあったということだ。このころは、全米各地で同様の代用通貨が発行され、景気がよくなると、法定通貨にとって変わられるのだが、不況時には、物と物とを交換することを仲立ちする大変有効な手段であったのだ。

この歴史的特徴によってうかがえることは、地域住民は、通貨に対して柔軟な発想のできる土壤があったといえる。まず、通貨は一つでないという発想がある。これは、意識において、日本人に比べて大変な違いがあると思う。それから、お金がないなら、自分で作ってしまえという考えがある。これは、一見すると無謀そうに見るが、地域住民が、お金の流通量が不足していることによって物の交換が促進されないので、お金さえあれば、必要なものを得ることができることや、お金は担保があれば十分信用を得ることができることを知っていて、おこなったのであろう。

それから、イサカアワーの導入を検討したころのアメリカの経済状態は、不況中であり、イサカも例外ではなく不況と失業に悩んでいた。イサカの多くの人々の主な就業状況は、パートタイムや規模の小さいビジネスに就いているというもので大変不安定であるという状況であった。

1991 年、ポール・グローバーが、イサカの「グリーンスター」という生協のスーパーマーケットで使用を提案した地域通貨である。ポール・グローバーは、市民の草の根運動の強力な推進者として知られる。自身は、ジャーナリスト・広告・農園・都市管理に深くかかわり、「グローバルに考え、地域で活動する。」という生き方を実践している。ちなみにイサカアワーの導入を受け入れた生協は、オルタナティブ（既存の価値観にとらわれない）な生活を志向している人の拠点となっているので発行を受け入れる土壤があったのだろう。

その提案の内容は、( i )自分たちでお金を印刷する。( ii )委員会を作つてお金の発行などを管理する。( iii )イサカアワーを 10 ドルと等価とする。( iv )イサカアワーを受け入れる人は自分の売りたいもの、あるいは技能を機関紙でアピールする。というものだ。

実際の使用方法は、( i )イサカアワーを使いたいと思う人は、イサカアワー委員会が発行する、イサカアワーの加入者が実際自分は何ができるか、何を必要としているかということが載っている新聞「アワ・タウン」の申し込み用紙に自分の名前と自分のしたいビジネスなどを記入し、1ドルをそえて委員会に送る。( ii )次の新聞に、自分の名前と、自分のできることが載る。( iii )会員になった証として 2 アワーが送られてくる。( iv )イサカアワーを使つたり、自分のできる仕事に対して報酬としてイサカアワーを稼いだりすることで、イサカアワーのコミュニティーに参加をする。というものだ。

貨幣にとって大事な担保についてポール・グローバーは、「実際の人々や実質的な時間・熟練・技能に裏打ちされている。」と語っている。

始めのうちは、おもちゃのようだと地域の人々の失笑を買っていたイサカアワーだが、次第に住民はその価値に気づいてきてより高い頻度で使われるようになった。そして、イサカアワーを導入したことによって、地域が次のように変化してきた。( i )地域通貨が流通する時に、人と人との交流が生まれたことによって、今まで見知らぬ仲だった住民同士の間にコミュニケーションが生まれた。( ii )イサカアワーによって、提供できる商品やサービスと、必要としている商品やサービスを直線的に結ぶことができ、ビジネスチャンスが増えた。それまでの商品のやり取りは、商品と商品を必要としている人を結ぶコスト（例えば広告宣伝費・店舗運営費など）がかかりすぎていて大変だった。しかし、「アワ・タウン」に提供者が提供できる商品やサービスを簡単に掲載し宣伝できるため、より容易に商品の交換を促進させることができるようになった。( iii )ドルよりも地域内を循環するスピードが速いため、地域経済を刺激している。( iv )イサカアワーは、非営利団体に寄付をおこなうことで、社会の多元的な維持に貢献する。例えば、家庭内暴力の救済を目的とする団体、ホームレスを援助する団体、地元の有機栽培農家を支援する団体などは、社会を破壊から免れさせたり、社会を維持しようとしている団体である。これらの団体は、イサカアワーを使いつつ、コミュニティーを維持し、建て直すことに貢献する。これらの行動により、イサカアワーは、様々な場面においてコミュニティーを維持することに役に立つ。( v )ポリシーを持ってお金を使うことができる。住民は、( i )ドルであれば、自分の使ったドル、その後どのような使い道にあうかわからないので不安であると考えている。例えば、まわりまわって、熱帯雨林を伐採されることに使われるかもしれない。戦争に使われるかもしれない。しかし、イサカアワーは、ある一定の地域内でしか使用されないのでどのように使用されるかということが、よく目に見えているために安全であると考えてる。( vi )地域の中で発生したビジネスにより地域の人が利益を得るような構造を持っているので使用する。有機農法をおこなっている人に対して援助したりするシステムを持っているので使用する。( vii )それから、銀行はイサカアワーのシステムを理解し参加している人に対して支援や取引を行っている。それは、地元銀行が地域の人を支援して地域経済を成長させることや、大銀行が支援しないような人々を支援していくのが目的であり、その目的とイサカアワーの目的が一致しているからである。

つまり、イサカアワーを使っている人が、イサカアワーが町や住民にどのような影響をあたえているかを理解した上で使っているのだ。現在までの発行総数は日本円で 800 万円くらいであったが、実際は 2 億円の経済効果を生み出している。イサカアワーは大成功であった。

（出所：地域経営と地域通貨について～地域通貨は日本に根付くか？～ 福井県立大学の藤典久  
<http://www.kaikaku21.com/ohmi/data/gotho.htm>）

### (3)コミュニティ・ビジネス・地域通貨の取り組みの検証と新たな規範・価値観

これまで、コミュニティ・ビジネスや地域通貨の一般的な定義や課題について述べてきたが、ここで改めて最初に述べた「地域共創」という概念と照らし合わせると、前回とりあげたどの事例についても開放系モデルであるとは言い切れない。現状のコミュニティ・ビジネスや地域通貨導入の目的があくまで地域で発生した「問題・課題の解決」に終始しており、旧態然とした価値観から脱却したものではないからである。

これらの取り組みによって自然とのつながり、人ととのつながりに気づくことが多いが、あくまでそれは部分的なものでしかなく、体験していない部分のつながりについては、大抵、気づかないままである。なぜなら、表面上の課題が解決されれば通常はそれ以上の追究は行わないからである。だが、海と山、大気と鉱物など部分的なつながりに気づく人が多いいるのも事実である。それらの人々をつなげる役割がとして今後地域が果たす部分は大きいのではないだろうか。

#### ○閉鎖系モデルから開放系モデルへー宮城県の気仙沼湾の漁民の取り組み

地域は異なる課題を抱えた人の集まりである。これらの課題をそれぞれ個人が抱えている時、それは閉鎖されたつながりの中での問題でしかない。つながりが修復されたとしても、この場合、あくまで一部にすぎず、根本の解決には至らない。問題は蓄積されたままであり、その後、形を変えて新たな問題が浮上する。

しかし、地域内の複数の問題を立場が違う人々で共有できるならば、表立って見えていなかった深層部分の問題にも気づくことができるのではないかだろうか。

例えば、宮城県の気仙沼湾では、1970 年代前後力キの育ちが遅くなり、収穫のサイクルが遅れるようになった。直接的な原因は、赤潮で水質汚染が原因だった。では、水をきれいにすればそれで解決するのか？宮城県の漁師はそうは考えなかつた。

気仙沼湾周辺を歩いてみたところ、上流は国の拡大造林計画で雑木林がスギばかりになっており、またその後の材木価格の暴落で間伐も行われず荒れ果てていた。中流の田んぼでは除草剤の影響でドジョウやフナなどの生き物が消えてしまっていた。また下流には石油タンクや下水処理場が立ち、ダムの計画があることもわかつた。すべての原因は海ではなく陸にあり、水質汚染を改善しただけでは、真に海が元に戻ることはないわかつたのである。そこで彼らは山に木を植え、環境の大切さを訴えることをはじめた。

現状では、彼らの活動は新たな規範や価値観の創出にはいまだ到達しているとはいえない。なぜなら、彼らの目的はあくまで海と陸との関係の修復の段階でとどまっており、大気や鉱物、ひいては地球を全体的に捉えるまでには至っていないからである。しかし、彼らの活動は部分的ではあるもののつながりの修復に至ることができた。最初に述べたとおり、地域は異なる課題を抱えた人の集まりである。

例えば、森林破壊の問題に取り組んでいる人がいる。彼らはそれが大気汚染によるものだということを知っている。光化学スモッグなどの大気汚染問題に取り組んでいる主婦の集まりがあったとする。彼女たちは大気汚染の原因が何かということを調べ知っている。このように人々が集まり、それぞれの体験を共有することでさらなるつながりに気づくことは可能である。他者の実体験を共有できる、最も小さい単位の集合が地域となりうるのではないかだろうか。

#### ○新たな規範や価値に基づくつながりとしての<地域>

当初、現状から導き出した定義として、コミュニティ・ビジネスは「地域の資源を活用し、地域住民が主体になって地域の問題・課題を解決することを目的とする事業活動」であると述べた。また、地域通貨についても同様で「問題解決の手段」の一つとして生み出されたものだと考言える。

しかし、最初に定義した「地域共創」の概念にもとづいて捉えなおすならば、コミュニティ・ビジネスは「地球資源の循環(つながり)を意識しながら、地域住民が主体となって地域コミュニティの活性化(つながりの強化)を図ることを目的とする事業活動」といえるのではないかだろうか。同様に地域通貨は「コミュニティ内のつながりを強化する手段」だといえる。

コミュニティの活性化(人類間のつながりの強化)により、部分的なつながりの共有が図られ、新たな規範や価値に基づくつながりが創出されるのではないかと考える。

#### (4)その他自主的な地域住民運動

##### 事例1)雪冷房 21世紀の「クリーン／エネルギー／ワールド」<http://www.net-bibai.co.jp/eneken/yukirei/index.htm>

北国に生活する者にとって、山のように降り積もる「雪」は新たなエネルギーとしての価値を見出し、「雪が世界を救う」その日を目指して活動を続いている。21世紀は、「環境」と「食料」の世紀と言われている。これらの問題に対し英知の限りを尽くし対応し、豊かな世界の建設に取り組んでいる。雪国には、「雪」という無限の「環境」と「食料貯蔵」に役立つ資源であることに着目した「雪冷房」の取り組んでいる。

###### ○雪を活用した野菜の周年供給へ長期冷熱貯蔵

南空知産業クラスター創造研究会は、雪国の新しい農業経営と技術の確立を目指して「農業と雪を考えるフォーラム21」を開いた。空知管内の市町村は雪を利用した農産物の保管・品質維持など、雪を資源として活用する事例紹介と討論会が行われ、広大な土地と雪国の新しい農業経営技術の提案を模索した。「美唄市では雪冷房によるクリーンな冷熱で大型食料備蓄基地構想を検討している」と有畜農業による土づくりで安全、安心のおいしい食料を届ける産業として農業を位置付けている。その他、美唄市は雪利用によるマンションや老健施設の冷房、氷室での野菜貯蔵に取り組んでいるほか、輸送コスト試験に取り組む。产地での長期貯蔵や、流通段階での冷気利用の在り方を示している。

新潟県湯之谷村の農事組合法人グリーンファームでは雪の冷熱利用による雪中貯蔵施設に十年余りかけた、その成功と失敗談を語った。雪の活用はカット野菜事業の原料確保など、年間を通じて需要にこたえられ、価格の安定にも反映し、地域経済活動の活性化にも役立っている。美唄自然エネルギー研究会・農業交流班がJAびばい氷室実験研究所の協力を得て昨年秋収穫した農産物を同研究所の氷室に貯蔵していた野菜の漬物と、地元産米のおにぎりと合わせ「雪中貯蔵食品試食会」を開いた。貯蔵温度が〇～三度で、湿度八十五～九九%の雪室環境下では、電気冷蔵庫に比べ野菜の減耗を大幅に低く抑えながら長期保存が出来る、と関心を高めた。

###### ○美唄の老健施設 四月開館 全国初

雪冷房システムを導入した全国初の介護老人保健施設「コミュニティホーム美唄」(美唄市東五南七)が四月にオープンした。施設内の貯雪槽への雪入れが行われた。貯雪槽から出る風を循環させる「冷風方式」と、雪解け水を使った「冷水方式」を併用しているのが特徴だ。同ホームは、札幌の社会福祉法人「南静会」が運営。鉄筋コンクリート造り平屋建てで、延べ床面積約四千二百平方メートル。総工費約八億円のうち、雪冷房設備に約二千万円を投じた。貯雪槽は広さ約百平方メートルで、高さは約六メートル。コンクリートの外壁の内側に厚さ十五センチの断熱材を入れた。冷風方式は、この貯雪槽内の冷気を送風機で室内に送り込む。逆に温まつた室内の空気を、別のダクトから貯雪槽に戻す。一方、冷水方式は貯雪槽の雪解け水で不凍液を冷やし、機械室の熱交換器と室内の間を循環させるシステム。

雪がもつ特質の活用と冷却技術を融合させ電気エネルギーを使用しない、省力化を実現している。自然の循環系にそつた試みで資源の有効活用と省資源かに取り組んでいる。雪といった自然界が資源の備えている特性を「冷やす」といった観点で有効利用した。従来は石化資源に依存していた範疇より古代の「氷室」の効果性を技術で改善し、冷却装置として価値を高めたことに評価できる。今後、雪国で普遍的な商品として普及するかは費用対効果にかかっている。雪冷房の効果・性能に関して、冷却の有効性や導入にあたっての製造から日常の運営管理に至るまでの人的コストなど、導入事例の検証が必要になる。その結果、今後の用途開発や普及促進に向けた取り組みが加速することが想定される。雪の特性を地域経済活動に導入された事例で経済活動の活性化と電気エネルギーを削減する取り組みで、あくまでも技術開発による省エネ対応となっている。

開放系モデルの観点で捉えると本事例は社会的地域活動の一貫として雪冷房技術によるエコロジー対策の展開であり生態系から地球規模の営みを理解し、その営みを遵守するといった生活環境全般におよぶ取り組みになっていない。今後、どのように定着・発展させるか基本的な方針が考えられていない状況であった。  
「自然界と人のつながり」が本事例は基本的に理解されておらず、単なる一事業として活動している。従って地球規模での開放系モデルの事業事例とはならなかつた。

## 事例2)生き生き村 <http://www.kcat.zaq.ne.jp/aaalr909/ikiiki/mura/sontyou.htm>

子どもたちの「生きる力」を高めることを目指して 1983 年に旗揚げし、毎年春・夏・冬休みに全国的な規模で開催し、235 回を数える。これまでに参加した子どもたちはべー万人を越えている。各地の企業・学校・団体に招かれ、子育て・人育て、組織活性化やチームワーク化の研究会や講演会を行っている。応援指導した企業等は 300 を越えている。教育理念は「与え過ぎず、教え過ぎず、失敗は宝なり」と「教育は共育なり」であり、その理念を生き生き村や NL 研等を通して実践追求している。

※門脇 邦弘 (かどわき くにひろ)組織蘇生センター・代表 生き生き村 主宰 NEXT LEADER 研究会(NL 研)  
主宰 東京で生まれ、佐賀県、群馬県で育つ。神奈川県厚木市のソニー学園高等学校で教壇に立ち、働きながら学ぶ生徒たちと共に過ごした体験を生かして、民間教育実践家として「子どもから大人まで人間「生き生きと生きる」応援をしている。・生き生き村 NPO 法人 取得 18 年間の実績により、東京都から NPO(特定非営利活動)法人に許可されました。生き生き村は利益(もうけ)が目的でなく、皆が生き生き人間になることを応援している団体といえる。

村長の願い キレない子 大きな声でいさつする子 ゲームをして遊ぶよりも、外で元気に遊ぶ子 イジメない子 イジメられても負けない子 どうしてもガマンできなかつたらケンカできる子 目上の人を敬い、弱い人や幼い人をかばう子 約束を守る子 うれしい時は喜び、くやしい時にはくやしかり、ありがたい時は感謝できる子 騒ぐ時は大騒ぎし、静かにしなければならない時は静かにできる子 地球上のどこにいても夢を持って生き生きと生きていける子

小学生を対象にキャンパスクラブを通じて学校教育とは異なる理念の基、子どもたちの「生きる力」を高めることを目指して 1983 年に旗揚げし、年3回全国的な規模でイベントを開催し、235 回を数えるとあるが実績としては教育関連や企業研修に携わっている。その他の活動として「生き生き村 夢工房」は宿泊施設を有しており、集合教育(?)の実践活動や情報誌などを発刊している。「生きる力」を高めるためにどのような方法・手段で子供たちとコミュニケーションを取っているのか。本当にそのような指導、支援ができるのか。研修、イベント内容が不明確で現状では考察に至らない。今後は活動内容の詳細を掘ることが重要と考える。人間を生存させるには 3 つの側面がある。物理的な側面と知的な側面、それに精神的な側面と考える。物理的側面とは人間の肉体と自然と自然の産物を言う。知的側面とは物理的な人間の生存を少しでも快適に、喜ばしく、無理なく人生をまとうできるようにする人間自身を考え、自然に働きかけてこれを改善しようとする能力を言う。これらを推し進めることは人類の「進歩」である。しかしこの進歩は限られたものである。なぜならば、地球には限られた有現の資源しかなく、現状の資源を活用すれば副作用(環境破壊や人的ストレスなど)が生じる構造となっている。

## 事例3)つくろう！「環境共育都市」トンボを活かして 磐田市

<http://www.chiiki-dukuri-hyakka.or.jp/book/monthly/9807/html/t06.htm>

磐田市は環境庁のアメニティタウン計画のモデル都市の指定を受け、計画策定に取り組んだ。この計画は、市全域とそれぞれ形態の違う三地区を推進モデル地区に選定し、地区住民と若手行政マンによるプロジェクト・チームをそれぞれつくり、アメニティの普及、啓発などの活動を手掛けようとするものであった。自然保護活動イコール対決という構図を避け、「和」の思想で話し合いを進め、さらに、桶ヶ谷沼の保護にとどまらず、日本一の快適環境都市づくりに活かそう、と考えた。トンボは単なる貴重な自然の楽園、貴重な生物から、本市の快適な環境のシンボルとして、その存在価値を高め、桶ヶ谷沼とその周辺は、貴重な生物の聖域として保全されるとともに、市内外にその存在を示すものとなった。そこでは地権者、自然保護団体、行政などが同じテーブルにつき、「桶ヶ谷沼を考える会」を発足させた。「環境」とは、身近なトンボや桶ヶ谷沼などの自然環境だけでなく、経済環境、生活環境など、広い意味の環境のことであり、「共育」とは、単に共に存在するという共存や共生から一步進んで、市民・企業・行政が協力し、繁栄・永続する仕組みを共に育(はぐく)み、創造する都市づくりを目指そうとするものである。

### 1)トンボの楽園(大図鑑)

楽園の住人たち「トンボ」を紹介している。トンボの種類は66種類が確認されており、単独の湖沼では日本一といわれており、写真図鑑が作成されている。桶ヶ谷沼は、磐田市の東部、磐田原台地の東縁にある周囲1.7キロメートル、広さ約7.4ヘクタールの沼である。県下有数の平地性淡水池沼で、多くの動植物が確認されており、なかでもトンボは66種、県内のトンボの2/3、国内の1/3の種類がここに生息している。絶滅危惧種の「ベッコウトンボ」が生息する、貴重な自然が残された沼として知られている。

### 2)野鳥・植物の楽園

「昔ながらの沼」の自然環境を、奇跡的に現代にとどめている貴重な場所として全国から注目を集めている。沼を取り囲む自然林と水生植物の密生した沼面、そして中央部にわずかに見られる開放性水面には、周囲からヨシやマコモが浮島を形成しながらせり出し、まさに原生的な景観をみせている。かつて、桶ヶ谷沼周辺は草原的な環境は少なかったのですが、現在では沼の北部や南西部の採土跡地が草原化し、沼の重要な種であるベッコウトンボの未熟個体が飛来し、生活の

場となっていることが知られている。このように桶ヶ谷沼とその周辺には、種々の植物によって形成された多様な環境がモザイク状に存在し、トンボ類をはじめとする全ての生物に適合する様々な生息条件を提供していると考えられる。今後も桶ヶ谷沼には益々多くの人々が訪れるこことでしょうが、狭い範囲の中で密度の高い生態系を維持しているこの素晴らしい自然を、そのままの形で後世まで伝えるために、一人一人が心配りをしていく。

自然環境の保全は現在社会の趨勢であり、今までの生活様式の転換が求められる。人類の自然との関わりを再認識し、人々の行動様式の見直しを迫るものである。磐田市の試みは自然保護を通じて市民・企業・行政が協力し、繁栄・永続する仕組みを共に育み、創造する都市づくりを目指そうとするもので、基本方針と理念は崇高なものである。現状の活動内容と今後の環境維持管理や市民活動の持続性を見守る必要がある。何故なら限られた人による参画では環境の保護は不可能であり、環境関連の条例や規則で保全することの限界はあらゆる環境関連活動で明らかになっている。市民が環境に対して“思いやり”的な、慈善的な活動では目標を達成することは困難と考える。環境問題は人が生きることの意味を自覚し、自律心に基づく行動規範を創りあげた上で活動することが環境問題を解決する唯一の方法と考える。

#### 事例4)宗教活動—開放系モデルとしての検証

##### a.アーミッシュー宗教的教義の実践集団 <http://swedenborgian.hp.infoseek.co.jp/Amish.htm>

1690年代、プロテスタントの再洗礼派の一派。激しい迫害を受け、ヨーロッパを追わされて自由の国アメリカにゆきつく。彼らは「従順」「謙虚」「質素」を自らの生き方の基本とし、その生活には電気も水道もテレビも電話も自動車もなく、質素な服装をするなど、厳しい規律を守って一種独特の文化を形成している。

##### b.アーミッシュの信仰・基本的な考え方

アーミッシュが変わった暮らしをしているのは、日常の生活で実践することが信仰だという考え方から、教会の建物も、聖歌隊も祭壇もステンドグラスもなく、専任の牧師ももたない。彼らはは徳を重んじるが、穏やかで控えめな人柄がよいとされ、忍耐、待つこと、他人に折れて従うことが成熟した人格のしとしている。現代人が個人の権利を求め、競争に勝つこと、自己の望みを果たすこと、「個を見出すこと」に熱心なのに対し、アーミッシュは自己を棄て去り共同体のために生きようとしている。

##### c.厳しい生活規則

彼らの生活の細かいルールがある。鏡を見ること、化粧、派手な色の服や流行の服を着たり美容院へ行ったり写真を撮ったりすることは虚栄心の現れとして禁止している。また余計な知識は人間を傲慢にするものであるとして、高等教育も受けない。何か人に誇れるようなものを持とうとする多くの現代人に対し、アーミッシュは何も誇るべきものを持つまいとする。そして朝早く起きて勤勉に働き、自分のためなく周囲の人々に役立つように務めている。

##### d.繁栄するアーミッシュ

このような厳しいきまりにも関わらず、アーミッシュの共同体は栄えている。彼らは積極的に外部の人に伝道したり改宗させたりはしないが、お互いが同じ信仰をもって家族のように結びつき、助け合いながら確固たる民族的アイデンティティーを得ている。

アーミッシュの考え方は、現代人にとって非常に考えさせられる、宗教の教義が背景にあり世界観の共通認識が具現化された意義あるものと考え取り上げた。

しかし、彼らの「役立ち」の思想はいかにもキリスト教的な人類愛に基づいたもので、犠牲的精神が偽善的行為と考える。共同体や他人のために働く行為の目的は何なのか。自己犠牲の精神の行く先に「死んで天国に行く」ことが目的とすると日常活動は手段としての慈善であり、善に対して悪の概念が存在している。悪を意識した善は偽善ではないか。

今回のテーマとして取り上げるにふさわしくない点もあるが以下的内容は検討に値すると考えた。

「しっかりと自我を確立する」という風潮とは逆に、「自我を捨て去る」ことに熱心である。

「すべては神または共同体のため、他の人のため、常に自分のことは一番最後に」と考えている。

「人に見られようとしないこと、何か誇れるようなものを持とうとしないこと、人より卓越しないことを求め、速いことよりもゆっくりなこと」の方に価値を見出している。

彼らは知識も才能も技術も、自分が所有するために磨くのではなく、すべては他人に役立てるため、隣人に益するためと応えている。

### 3. 「地域共創」における“開放系”的考察

1855 年にシアトル酋長がフランクリン・ピアース大統領に対していった言葉がある。それは大統領がシアトル酋長の部族の土地を買い取ると述べたときに語られた。「空や土地を、何故、貴方は売ったり買ったり出来るのですか。そういう考えは私達には奇妙に思えます。空気の新鮮さや水の輝きを所有していないのに、どうして買えるのですか。私達はよく知っています。大地が人間に属するのではなく、人間が大地に属することを。全てのものが人間みんなを結び付ける血のように結び付いているのです。人間が生命という織物を織ったのではなく、人間はその生命のなかの一本の糸にすぎないのです。人間がその織物に対してする事は実は自分に対する事なのです。

アメリカインディアンの世界観「地球の捉」アル・ゴア著

本質的に人間もガイアも<閉鎖系モデル>ではなく、<開放系モデル>に基づいた関係性を持っているという考え方がある。後者は、せいぜい相互に間接的な影響を及ぼす程度の関係ではなく、表面的には関係がないような現象でも本質的には関係が深く、相互にその要素や存在が不可欠であるという関係を前提としている。

“自然環境とのつながり”“人と人とのつながり”“心と身体のつながり”“(心における)知と意と情のつながり”等を示す。今の宇宙は、一五〇億年という時間をかけて、我々人間を生み出したという特性をもっている。

エネルギーだけが満ちていた空間から、素粒子が生まれ、素粒子から単純な元素・水素が構成され、さらに水素が核融合して複雑な元素への発展。元素から分子、そして高分子。さらに複雑な有機質へ。

さらに単細胞生物を生み出し、やがて多細胞生物へ。そしてついには六十兆個の細胞で構成される人間へと発展した。

人間の構造の複雑さ・精緻さは、驚嘆に値する。宇宙は発展・進化するという特性を持っており、宇宙的時間の流れの中で考えれば、我々人間というのは、発展・進化過程の一形態にすぎないと考える。

これらの認識に基づいて開放系モデルを捉えると地球における人間の営みは宇宙の進化、地球上の生態系循環システムの原則から逸脱している。その要因は人間の物質文明による「欲望」の肥大化であり、個人主義・人類中心主義・科学万能主義である。今後は、冒頭(P6参照)のとおり、さまざまなアンチテーゼや試みを批判的に体系化し、新たな価値基準を再構築することが不可欠であり、行動規範としての「地球環境の維持であり持続可能な社会システムの開発」は必須であると考えられる。(※参考2:開放系モデルにおける5つの基幹分野 参照)

開放系モデルの実践活動は、こうしたさまざまな萌芽的な実践活動の裏づけに依拠した、新たな価値体系構築への試行錯誤であり、ビジョンに賛同する人々による忍耐強く弛まぬ努力と強力なリーダーシップが不可欠である。また、それは、本源的な人間としてのパワー(自然治癒力等※参考1)や本質的な“自己肯定に基づく自己表現”や“他人との共同・協働の楽しさ”(※参考3)に基づくものとなると考えられる。

#### 参考1:身体と心—開放系モデルとしての“オステオパシー”

オステオパシーとは、生物(人間)に備わっている自然治癒力を最大限引き出そうとする治療方法のことである。軍医でもあったスコットランド系アメリカ人 アンドルー・ティラー・スタイル(1828~1917)は、どんな病気の患者にも必ず筋骨格系の異常があり、循環系と神経系のアンバランスが症状を起こしているのではないかと考え、それを解決するために独自の治療方法を確立した。その治療方法をギリシャ語で、骨を意味する“オステオ”、病むを意味する“パソス”からオステオパシーと名付けた。1892年には、アメリカオステオパシー大学が創設されている。

このオステオパシーに対して、以下の治療の基本的な考え方がある。

ホメオパシー サムエル・ハーマン(1755~1843) 患者の症状と同じような症状を起こす薬剤をごく微量投与することを治療行為の基本とする

アロパシー 現在の西洋医学であり、患者の症状とは反対の作用をもつ薬剤を投与することを治療行為の基本とする

オステオパシーは、ホリスティックな観点から自然治癒力を引き出すことを基本的な考え方としているが、代表的な治癒例として以下のものが報告されている。

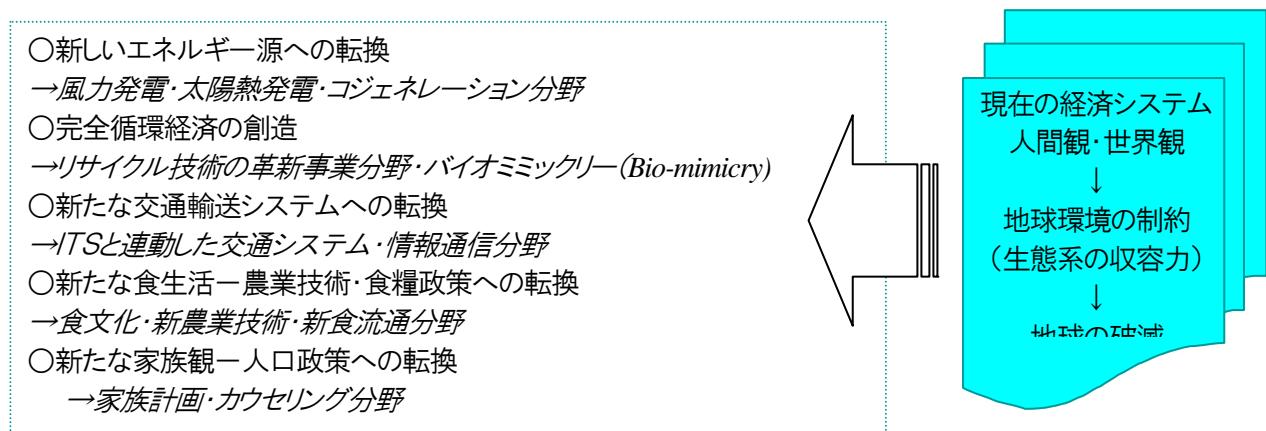
○5歳の子供;散歩に連れ出すと決まって暴れまわり、人に噛み付くという奇妙な症状があった。母親には妊娠中に親族が立て続けに2人自殺するという経験があった。その際の感情的な反応(怒りと苦痛)が子供の緊張を引き起したと考え、背骨の緊張を緩める治療を手技によって行った。治療直後から母親の膝の上で眠り、その後症状の再発はなくなった。

○32歳の女性;腰痛と骨盤の痛みが直らない。それまでの経験を聞くと、性暴力を受けていたことが分かった。骨盤から下の神経系が固着していることが分かり、2ヶ月に渡る手技によって症状は改善に向かっていた。しかし、突然、症状は完全に元に戻ってしまった。性暴力を行った男性の葬式に参席したのである。その後、改めて神経系の固着を取り除くと完全に症状はなくなった。

人は誰でも心と身体の関係を直感的に感じているが、オステオパシーはそれらにホリスティックな観点から体系化している。歴史は古いが、科学主義偏重の傾向の中でアロパシーが主流となっている。

しかし、心と身体の強い結びつき(開放系)を前提とした治療や人間存在、生命存在に対する洞察は、地域医療等はもとより今後の新たな規範・価値創造に極めて多くの示唆を与えていると考えられる。

## 参考2:開放モデルの5つの基幹分野とライフスタイルイメージ



風の恵み・太陽の恵みでエネルギーを創出し、自然生態系に学んだ完全循環経済を確立して一切の無駄がなく、静かで快適な交通基幹網と自転車でゆっくりとした人々の移動、適正なカロリーの慎ましやかではあるが豊かで完全に自然の恩恵を受けた食事を取り、2人以下の子供にたっぷりとした愛情を注ぎ、地球人としての豊かな生き方を伝授し共に創造していく生活…

## 参考3:オーストラリア:ブリスベン P.E.E.C. Mr.Ron Tooth 氏の試み

※約20年間、主に子供たちを対象として、校外スクールを開催、環境問題や差別問題を教えている。キーコンセプトは、子供たちに理解力や知識力の向上ではなく、“他人に何かを伝える力”を引き出すプログラムとなっている。

- 例;ケーススタディ:step1.テーマの選定:アボリジニへの差別と環境保護  
step2.調査:上記のテーマに関する史実の調査  
step3.ストーリーラインの決定:史実に基づくストーリーの決定(アボリジニの女の子と白人の男の子の友情  
→いつしょに遊んだ湖を牧畜のために白人が奪おうとしている→やがてこの子供たちの子孫であり、湖の所有者となったアボリジニがこの湖を止む無く売却しようとしている…)  
step4.舞台設定:キャンプ場にこの子供たちが住んでいる家や日記帳、会話のテープ等をリアルに準備する  
step5.テストライ:あらかじめこのストーリーの概要を子供たちに説明し、必要な史実を調べさせ、キャンプ場に連れてくる。キャンプ場での調査や考察の後、更に調査を重ね内容をまとめ、他人にその結果を伝える。→このプログラムをいくつかの学校の先生と協力し、テストライを行う。  
step6.本格展開:人の根本的な部分は変わらないことを伝える…